

いのちあふれる美しい地球を次代へ 第29回イオン環境活動助成先を決定しました

111団体に総額9,691万円を助成

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、2019年6月から8月にかけて行った第29回イオン環境活動助成公募の結果、111団体に総額9,691万円の助成を行うことを決定しました。

当財団は1990年の設立より29年間、「生物多様性の保全と持続可能な利用」のために、世界各地で積極的に環境保全活動を継続して取り組んでいる団体への助成を続けています。今回の助成も含め、これまでにのべ3,059団体に、総額約28億円の助成を実施しています。

助成分野として掲げた「植樹」「里地・里山・里海の保全・河川の浄化」「自然環境教育」「野生生物・絶滅危惧生物の保護」の4つの分野に対し、本年は世界各地で活動する155の団体から応募があり、111団体を選出しました。近年、子ども対象とした環境体験教室や、海を保全する活動などの「自然環境教育」に関する応募が増加しています。

当財団は、いのちあふれる美しい地球を次世代へ引き継ぐため、これからも植樹活動や助成事業を通じた環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

【第29回環境活動助成 概要】

基本テーマ：生物多様性保全と持続可能な利用のために
 助成金額：9,691万円
 助成期間：2020年4月1日～2021年3月31日
 助成先：111団体

活動分野	団体名（活動地域）
植樹	特定非営利活動法人イカオ・アコ(フィリピン) 特定非営利活動法人NEKKO(フィリピン) 特定非営利活動法人ハロハロ(フィリピン) 緑の地球ネットワーク(中国) 公益社団法人 秋田県林業育成協会(中国) 特定非営利活動法人緑化ネットワーク(中国) 一般社団法人 地球緑化クラブ(中国) 非営利活動法人モンゴル環境情報センター(モンゴル) 一般社団法人 ジョフカ(モンゴル) 特定非営利活動法人エコアライアンス21(モンゴル) 特定非営利活動法人 VERSTA(ブラジル) 一般社団法人裸足醫チャンプルー(ミャンマー)

植樹	<p>ボランティアサザンクロスジャパン協会(マダガスカル) 特定非営利活動法人 アジア母子福祉協会(マダガスカル) ウータン・森と生活を考える会(インドネシア) F. C. Manis(インドネシア) 特定非営利活動法人炭の木植え隊(ラオス) NPO 法人 白神山地を守る会(青森県) 特定非営利活動法人白神ネイチャー協会(秋田県) 公益財団法人鎮守の森のプロジェクト(福島県) NPO 法人森びとプロジェクト委員会(福島県、栃木県) 青年海外協力隊茨城県 OV 会(茨城県) 秩父育樹会(埼玉県) 特定非営利活動法人 四街道メダカの会(千葉県) 特定非営利活動法人国際ふるさとの森づくり協会(東京都) NPO 法人 伊豆未来塾(静岡県) 特定非営利活動法人戸隠森林植物園ボランティアの会(長野県) 彦根ブナの会(滋賀県) NPO 法人霧島ふるさと命の森をつくる会(鹿児島県) あかゆらぬ花会(沖縄県)</p>
里地・ 里山・ 里海の 保全・ 河川の 浄化	<p>公益財団法人 地球環境戦略研究機関 国際生態学センター(ラオス) NPO 法人 草の根国際協力研修プログラム(タイ) 特定非営利活動法人 中央アジア森林草地保全研究所(タジキスタン) 猿倉緑の森の会(新潟県) 特定非営利活動法人 輝く猪苗代湖をつくる県民会議(福島県) NPO 法人里山環境さなざわ(群馬県) 森林塾青水(群馬県) 特定非営利活動法人 麗潤館(茨城県) 特定非営利活動法人 こびすくらぶ(千葉県) NPO 成田さくらの里(千葉県) 特定非営利活動法人しろい環境塾(千葉県) ほたる野を守る NORA の会(千葉県) 特定非営利活動法人ちば環境情報センター(千葉県) NPO 法人 草炭緑化協会(千葉県) あびこ谷津学校友の会(千葉県) 特定非営利活動法人アースデイ・エブリデイ(東京都) 認定特定非営利活動法人えどがわエコセンター(東京都) 横浜自然観察の森友の会(神奈川県) 特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会(神奈川県) 玉縄城址まちづくり会議(神奈川県) NPO 法人海の森・山の森事務局(神奈川県) 一般社団法人グリーンエネルギー推進協議会(静岡県) 認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパン(静岡県) 鯉城・堀川と生活を考える会(愛知県) 「あいちの海」グリーンマップ(愛知県) 特定非営利活動法人ぎふし森守クラブ(岐阜県) 認定特定非営利活動法人 森林の風(三重県) 巨木と水源の郷をまもる会(滋賀県) 認定 NPO 法人びわこ豊穰の郷(滋賀県) NPO 法人 愛のまちエコ倶楽部 里守隊(滋賀県) 特定非営利活動法人 森林ボランティア 竹取物語の会(大阪府) 特定非営利活動法人 泉南の里山を大切に作る会(大阪府) 吉田山の里山を再生する会(京都府)</p>

<p>里地・ 里山・ 里海の 保全・河川 の浄化</p>	<p>特定非営利活動法人 うだ夢創の里(奈良県) 行常しあわせの森づくり協議会(兵庫県) 特定非営利活動法人 豊かな森川海を育てる会(兵庫県) よこおみち森もりの会(兵庫県) 高砂海浜公園海辺の保全集いの会(兵庫県) 豊島棚田くらぶ(香川県) 特定非営利活動法人アーキペラゴ(香川県) 和白干潟を守る会(福岡県) ふるさと・夢つむぎネットワーク(佐賀県) 非営利活動法人長崎海洋環境研究会(長崎県) 特定非営利活動法人さかのせき・彩彩カフェ(大分県)</p>
<p>自然環境 教育</p>	<p>一般社団法人 名古屋環未来研究所(カンボジア) 特定非営利活動法人 地球市民の会(ミャンマー) 特定非営利活動法人パルシック(マレーシア) 特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ(北海道) 十和田市名水保全対策協議会(青森県) 特定非営利活動法人 グリーンエネルギー青森(秋田県) NPO 法人秋田パドラーズ(秋田県) 特定非営利活動法人 スパッと鳴子温泉自然エネルギー(宮城県) 群馬ナチュラルリスト自然保護協議会(群馬県) 特定非営利活動法人 日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト(東京都) 日の出ネイチャークラブ(東京都) 特定非営利活動法人農に学ぶ環境教育ネットワーク(東京都) 阪大竹の会コラボ(大阪府) 全日本鹿協会(静岡県) NPO 法人日中資源開発協会(石川県、富山県) 公益財団法人 京都市森林文化協会(京都府) 奈良・人と自然の会(奈良県) 特定非営利活動法人 三木自然愛好研究会(兵庫県) e-みらっそ環境教育プロジェクト(兵庫県) エコ村伝承館(熊本県)</p>
<p>野生生物・ 絶滅危惧 生物の 保護</p>	<p>特定非営利活動法人サラマンドフの会(ケニア) 特定非営利活動法人 エバーラスティング・ネイチャー(インドネシア) 大雪山マルハナバチ市民ネットワーク(北海道) NPO 法人本州産クマゲラ研究会(北海道、青森県、秋田県、岩手県) 坂月川愛好会(千葉県) 千葉県野生生物研究会(千葉県) 特定非営利活動法人日本オランウータン・リサーチセンター(マレーシア、東京都) 特定非営利活動法人 サンクチュアリエヌピーオー(静岡県) 特定非営利活動法口海プラスSOU(静岡県) 特定非営利活動法人 富士山自然保護センター(山梨県、静岡県) 愛知守山自然の会(愛知県、岐阜県、三重県) 里山の山野草を守る会(奈良県) NPO 法人野鳥の病院(大阪府) 東お多福山草原保全・再生研究会(兵庫県) NPO 法人ふくおか湿地保全研究会(福岡県、大分県) ガシャモク再生の会(福岡県) 特定非営利活動法人 大淀川流域ネットワーク(宮崎県)</p>

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団について】

当財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立しました。以来、環境活動に取り組む団体への助成・支援、世界各地における植樹活動、生物多様性の保全などに貢献した団体・個人への顕彰、環境人材育成のための環境教育を主な事業として、さまざまな環境・社会貢献活動に継続して取り組んでいます。

《公益財団法人イオン環境財団ホームページ：<http://www.aeon.info/ef/>》

■助成

第28回環境活動助成は102団体へ9,088万円を助成しました。

【環境活動助成先団体の活動の一例】



みなかみ町藤原地区上ノ原 ススキの茅狩り
団体名：森林塾青水（千葉県）



白神山地 プナ林植樹活動
団体名：NPO 法人白神ネイチャー協会（秋田県）

■イオンの森づくり

各国行政と協力し、自然災害などで荒廃した森の再生を目的としてアジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2019年は、国内では北海道南富良野町、三重県松阪市、宮城県石巻市、宮崎県綾町、千葉県九十九里浜にて、海外では武漢市（中国）、ジャカルタ、ビドー（マレーシア）において植樹活動を実施しました。



第1回 北海道南富良野植樹



ビドー植樹（マレーシア）

■ パートナシップ

〔国連生物多様性条約事務局との連携〕

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設し、隔年で顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2019年9月26日（木）に第6回「生物多様性日本アワード（国内賞）」授賞式を行い、株式会社コクヨ工業滋賀がグランプリを受賞しました。



第6回 授賞式（国際連合大学）

〔一般財団法人リモート・センシング技術センターとの連携協定〕

当財団は、2019年7月23日、一般財団法人リモート・センシング技術センター（理事長池田 要）と、持続可能な地域づくりの実現に向け、リモート・センシング技術の活用に関し連携協定を締結しました。リモート・センシング技術（※）による地球規模のグローバルな視点で得た過去及び現在の地球表面の情報により、森や地域の状態を効果的に調べ、植樹候補地の選定に必要な情報や、植樹前後の森林の状態を客観的に把握します。これまで当財団が実施してきた植樹等の森林管理活動を、より効果的に行うことが可能となります。また、教育の場においては、リモート・センシング技術を活用した衛星画像データにより、森林減少、地球温暖化、大気汚染などさまざまな環境問題を把握、理解し、地域の持続的発展のための解決案を考える環境教育も実施します。両者は、本協定を機に、次代を担う子どもたちに持続可能な地域と豊かな自然を引き継ぐため、連携して取り組んでいます。

※リモート・センシング技術とは、人工衛星などに搭載した観測機器（センサ）を使い、離れた位置から地球表面等を観測する技術で、植生、土壌や大気の水分量、地表や海面の温度、地球表面の変位など地球環境を把握するための様々な情報を得ることができます。

■ 環境教育

〔アジア学生交流環境フォーラム〕

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を実施しています。2019年は、「持続可能な平和のため」をテーマに王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チェラロンコン大学（タイ）、ヤンゴン経済大学（ミャンマー）、フィリピン大学（フィリピン）の10か国合計80名の学生が参加し、8月2日～6日の期間にプノンペンとシェムリアップ（カンボジア）で、当フォーラムを開催しました。



第8回ASEP開講式（王立プノンペン大学）